

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 同志社大学 社会学部 埋橋孝文研究室
URL: <http://jasps.org/> TEL: 075-251-4502 E-mail: uzuhashi01@gmail.com
- ◇ 編集・発行 埋橋孝文(代表幹事) 郭芳・首藤若菜(Newsletter 担当幹事) 所道彦(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel: 03-5206-7431 Fax: 03-5206-7757 E-mail: jasps@worldpl.jp

【目次】

1. 第 138 回 (2019 年度春季) 大会のお知らせ
2. 第 138 回 (2019 年度春季) 大会実行委員会の挨拶
3. 70 周年重点事業について
4. 学会再建 70 周年の記念誌刊行について
5. 第 136 回 (2018 年度春季) 大会博士論文報告会に関する報告
6. 第 137 回 (2018 年度秋季) 大会の報告
7. 第 137 回 (2018 年度秋季) 大会の会計報告
8. 会員のご逝去について
9. 2018-2020 年幹事会報告
10. 承認された新入会員

1. 第 138 回 (2019 年度春季) 大会のお知らせ

社会政策学会 138 回大会は、2019 年 5 月 18 日 (土) と 5 月 19 日 (日)、高知県立大学で開催されます。第 1 日は、テーマ別分科会、自由論題、国際交流分科会などを行います。報告の申込みはすでに締め切られており、テーマ別分科会として 6 つの企画、自由論題として 9 報告が採択されました。すでに申込者の方には結果を通知しておりますのでご確認ください。さらに、若手研究者向けの教育セッションも開催いたします。

また、第 2 日の共通論題は、『「一億総活躍」の現実を問う』をテーマに、座長 (兼コメンテータ) を仁田道夫東京大学名誉教授とし、禹宗杭埼玉大学教授、鈴木江理子国士舘大学教授、中村優介江東総合法律事務所弁護士、浅見和彦専修大学教授にご報告いただき、議論いたします。現政権が打ち出した「一億総活躍社会の実現」という経済社会構想が意味するところを問い、それが現実にかいなる影響を与えているか、また、今後与えていくのかを検証し、学会員のみならず、日本に暮らす人の「働き方」が変化する様相を読み解き、あるべき対応策について構想する機会にできればと思います。

【報告者の方へのお願い】

分科会・自由論題のフルペーパーは電子化されております。フルペーパーが用意されることで報告が成立するという点をご理解いただき、期日までにフルペーパーをご提出いただきますようお願いいたします。レジュメなど当日配布資料等は開催校ではお預かりしませんので、宅配便等により開催校に送付されないようお願いいたします。

(春季大会企画委員会 鬼丸 朋子)

2. 第 138 回 (2019 年度春季) 大会実行委員会の挨拶

社会政策学会 2019 年度春季大会は、5 月 18 日 (土) と 19 日 (日) の両日、高知県立大学永国寺キャンパスを会場にお使い頂いて開催されます。5 月 18 日には、テーマ別分科会ならびに自由論題が、19 日には『「一億総活躍」の現実を問う』をテーマにした共通論題が、それぞれ開かれる予定です。

今回の開催校となる高知県立大学の社会福祉学部は池キャンパスにあります。2017 年度に学部創設 20 周年を迎え、多くの卒業生が医療・福祉の世界で活躍してくれています。また、2018 年に明治維新 150 周年を迎えましたが、その前年 2017 年は、植木枝盛生誕 160 年、中江兆民生誕 170 年、板垣退助生誕 180 年に当たります。自由民権思想・運動の先駆者が高知で生まれています。そのような歴史と文化、自然環境と食べ物の豊かさ、おもてなしの高知・土佐を少しでも感じ取って頂けますなら幸いに存じます。

今回はじめて社会政策学会の開催校をお引き受けすることになりましたが、会員の皆さまにとって想い出深い大会の 1 つとなりますよう、できる限りの環境整備に努める所存でございます。不十分な面もあろうかと思いますが、心より皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

なお、永国寺キャンパスは JR 高知駅からタクシーで 5 分程度です。さしあたり社会政策学会実行委員会で 50 室確保しております宿泊施設 (「ホテル NO.1 高知」088-873-3333) もありますので、お早めにご予約頂ければ幸いに存じます。

(第 138 回大会実行委員長 田中きよむ)

3. 70周年重点事業について

「重点事業」担当(禹宗杭, 所道彦, 垣田裕介)は, 重点事業の案を検討し, 2月9日の幹事会で下記のような案を提出しました。幹事会では, 同案について検討を始めています。

「重点事業」(案)

1. 事業

「70周年記念事業」として, 第一に, 仮称「若手研究者優秀論文賞」を設け, 2020年の春季大会から施行する。第二に, 仮称「若手研究者特別セッション」を設け, 2020年の春季大会から実施に移す。第三に, 仮称「社会政策学会若手研究者夏のキャンプ」を2020年の夏に行う。

2. 趣旨

この間, わが学会は, 若手研究者の入会と育成に向け, さまざまな努力を積み重ねてきた。しかし, 若手研究者の層が全般的に薄まっているなか, わが学会においても, 若手研究者の育成不足あるいは学会活動への参加不足は認めざるを得ない状況に置かれている。なお, 学会のシニア・中堅研究者と若手研究者との対話の機会が少なく, 若手研究者の意欲と能力を高めるための場が十分でないことも, 懸念材料となっている。

このような現状に対し, 「70周年記念事業」という名分をフルに生かし, 一つの突破口を切り開いていこうというのが, 本案の趣旨である。この際, 記念事業を単なる一過性のものにせず, 可能な限りその成果を継承し, 今後の学会活性化に繋げていく, というスタンスに立つ。

一方, わが学会はこの間, 労働領域の研究と社会保障・社会福祉領域の研究を二つの軸にして, その底辺を広げてきた。しかしながら, 両領域間の接点を積極的に探索し, これからの日本社会あるいは社会一般における望ましい労働・福祉システムを構築するための研究は, 必ずしも円滑に進んでいるとはいえない。この問題の改善をも視野のなかに収めたい。

3. 素案

(1)「若手研究者優秀論文賞」

仮称「若手研究者優秀論文賞」を設け, 2020年の春季大会から施行する。

その趣旨は, 若手研究者の大会での報告論文を審査し, 優れたものを表彰することにより, 若手研究者の大会参加意欲を高めるとともに, 研究の質を向上することである。

優秀論文賞の受賞作には, 『社会政策』に査読論文として掲載できるチャンスを与える。2020年には「記念事業」の一環として実施するが, それ以降は, 通常の事業として引き続き施行する。

<具体案>

若手研究者の範囲は, 大学院在籍中, あるいは大学院中退・修了後常勤の教育・研究職についていないか, または常勤の教育・研究職についてから3年以内とする。審査の対象は, 自由論題および各分科会で報告された論文とする。審査委員会は, 2020年春季大会の場合, 重点事業担当幹事を含め5名程度で構成する。

ただし, 審査委員として, 論文を報告する人の指導教員は避けることとする。

審査は, 予め論文が提出された段階で開始し, 審査委員が分担して報告を聞き, 審査の結果は大会2日目の最後に発表する。副賞はないものとする。受賞作は, 審査委員からのコメントをふまえて改善を施すことで, 「レフェリー付」として取り扱い, 『社会政策』に掲載する。(⇒ただし, この具体化は, 編集委員会と協議する) 上記の案は, 2019年春季大会の総会にて告知し, 2020年春季大会で施行する。

(2)「若手研究者特別セッション」

仮称「若手研究者特別セッション」を設け, 2020年の春季大会から実施に移す。

その趣旨は, 大会でのセッションにおいて「若手研究者枠」を設けることである。現在, 若手研究者は主に自由論題において個人研究の成果を報告することになっている。研究テーマは限定され, 自分の取り組む事柄に問題関心が狭まれるきらいがある。この状況の改善に資するため, 可能であれば, 労働領域と社会保障・社会福祉領域が接するテーマを選び, 大会において主に若手が参加するセッションを設ける。このような試みをとおして, 若手の育成を促すことができると考える。

セッションに向けての打ち合わせを1-2回行う。その費用は, 学会が持つ。2020年の春季大会に向けては, 部会などからの推薦を活用しつつ, 重点事業担当幹事のイニシアティブのもと, 上記両領域の接点をなすテーマを設定し, 一つのセッションを組織する。

2020年には「記念事業」の一環として実施するが, それ以降は, 通常の事業として引き続き施行する。事業の施行に当たっては, 若手研究者が主体的に参加できるよう, 最大限配慮する。大会ごとのセッションの組織が困難な場合, 1年に1回, あるいは2年に1回の開設を検討することも可能である。ただし, いずれの形にせよ, 開設を定例化することが望ましいと思われる。

<具体案>

検討中。

(3)「社会政策学会若手研究者夏のキャンプ」

仮称「社会政策学会若手研究者夏のキャンプ」を2020年の夏に行う。

その趣旨は, 学会のなかに少しの「余裕」を作ることである。それをもって, 若手研究者の個別化あるいは孤立化を防ぐとともに, シニア・中堅研究者との交流・議論の場を広げ, 学会のなかでの人的・学術的ネットワークを築き上げることである。

2020年の夏に1泊2日のキャンプを開催する。日ごろの研究成果を持ち寄り, 発表し, シニア・中堅研究者のコメントを受けな

から議論を進める。なお、懇親会・エクスカージョンなどをおとして、広く交流する。シニア・中堅研究者の参加は自費負担とするが、若手研究者の参加に対しては、学会が補助する。

若手研究者の優れた研究には、本学会の大会での報告はもちろろん、海外の学会での報告のチャンスをも与える。海外の学会での報告に必要な費用は、学会が補助する。

2020年には「記念事業」の一環として実施するが、それ以降は、通常の事業として引き続き施行する。2年に1回、あるいは4年に1回の開催を検討することも可能である。ただし、いずれの形にせよ、開催を定例化することが望ましいと思われる。

<具体案>

検討中。

4. より検討すべき事項

各事業の優先順位

第一事業:選考委員会の構成と選考手続きなど

第二事業:セッションの構成と依頼する専門部会など

第三事業:予算、実行主体の組織、選考委員会の構成と選考手続き、補助のあり方など。

(重点事業担当 禹宗杭, 所道彦, 垣田裕介)

4. 学会再建 70 周年の記念誌刊行について

すでに公表されていますように、学会の戦後再建 70 周年記念事業の一環として記念誌が刊行されることになりました。

学会史小委員会のメンバーが記念誌の編集を中心に担うこととなります。公刊は 2020 年春を目標としています。

記念誌には様々なコーナーを設け、70 年の歩みを振り返ってみたいと考えています。今後、委員から該当者への執筆依

頼等が始まる予定ですので、ぜひご協力のほどをお願い申し上げます。

なお、下記メモは 2 月 9 日幹事会に提出したものです。ご参考にしていただければ幸いです。

(記念誌刊行委員会 玉井金五)

1 記念誌の刊行時期

2020 年の春の大会頃を目標とする。

2 記念誌の内容構成

1) 挨拶コーナー⇒代表幹事。

2) 寄稿コーナー⇒歴代代表幹事が執筆し、それぞれの時代の状況がわかるようにする。

3) 座談会コーナー⇒①雇用・労働と②社会保障・生活のテーマに分けて2つの座談会を持ち、回顧と展望を行う。すでに座談会参加者への依頼が始まっている。

4) 国際関係コーナー⇒協定を結んでいる機関、その他と分けて関係者からのメッセージをいただく。なお、国際交流委員会の協力を仰ぐ。

5) 部会関係コーナー⇒地方部会、専門部会からの寄稿。

6) データ関係コーナー⇒予算、会員数、委員会等の変遷など。ただし、データ収集が困難なときは 2000 年以降に注力する。また必要に応じて学会 HP からの転載もありうる。なお、垣田事業委員の協力を仰ぐことにした(快諾済)。

3 予算関係

見積もり(別途配布)、関連経費

4 その他

5. 第 136 回(2018 年度春季)大会博士論文報告会に関する報告

春季大会企画委員会は、第 136 回(2018 年春季)大会において、博士論文報告会を開催しました。企画趣旨は、博士号取得して間もない会員の方々にその内容を報告していただき、会員相互の研究交流を深めるとともに、出版社の方々をお招きして博士論文の出版につながる機会を提供するというものです。当日は 8 名の会員が登壇され、このうち、2019 年 2 月現在で、田中恒行会員著『日経連の賃金政策』(晃洋書房、2019 年 2 月)が刊行されました。また、福田直人会員が発表された「ドイツ社会国家における「新自由主義」の諸相－第二次赤緑連立政権

における財政再編を事例とした考察－」をベースにした書籍が、明石書店より 2019 年度に刊行される運びとなっております。お力添えいただきました出版社の皆様へ厚く御礼申し上げます。春季大会企画委員会では、同企画の継続を考えておりますので、改善点などございましたら、ご教示ください。また、次回の開催時にも、奮ってエントリーいただけますようお願い申し上げます。

(春季大会企画委員会 鬼丸 朋子)

6. 第 137 回(2018 年度秋季)大会の報告

社会政策学会第 137 回大会は、9 月 15 日、16 日の両日、北海学園大学豊平キャンパスで行われました。9 月 6 日未明に発生した北海道胆振東部地震の直後でしたが、151 名の方

にご参加頂きました。

最初に参加者、あるいはこれからの大会に参加する方への願いがあります。これは以前の大会から問題になっている事

すが、事前振込の〆切を厳守して頂きたいということです。今回は地震の影響で大規模な停電が発生し、それに続いて大学のネットが使えない期間がありました。幸いACプランニングに振込のとりまとめ等は委託しておりましたので影響は小さかったのですが、地震発生以降に振込をしている会員もおりました。もちろん〆切をまもらない会員はごく少数ですが、実行委員会の負担が増しますので今後はこのような事がないようお願いいたします。

そしてさらにはお願いです。分科会でレジュメを当日に会場校に印刷して欲しい、あるいは受付時間の前に会場をあけて欲しい等個別の要望を出す会員の方もいらっしゃいました。このような事象につきましては、プログラムで対応不可とお知らせしています。こちらも今後はご遠慮頂きたいと思っております。

さて、今回の報告は震災対応を中心に記述したいと思っております。まず、胆振東部地震が発生したのが9月6日(木)午前3時7分でした。最大震度は7、大学のある豊平区は5弱でした。私は6、7日も大学に様子を見に行きましたが、両日も安全点検のため建物の中に入る事ができませんでした。しかし、出勤した大学職員に確かめた所、建物の倒壊等はないとの事でした。ただ、図書館では書架から本が大量に落ち、その後1週間以上閉館になりました。

7日(金)夕方には大学のある地区の停電は解消されました。

8日(土)は大学の建物に入れるようになりました。実行委員会と大学職員で使用する教室のAV機器、マイク等の確認を再度行いました。機器が壊れている教室はありませんでしたが、地震の揺れで天井から吊り下げているプロジェクターの位置が若干ズレている所もあり、職員の方に直して頂きました。このような確認作業は教員だけではできませんので、職員の協力は大変ありがたいものでした。(この他にも立て看板に貼るポスターの印刷、大学にかかってきた問い合わせの電話の対応も職員が担当してくれました)

8日(土)になっても、まだ大規模停電の影響で大学の水道やトイレが使えない状態でした。さらに大きな問題は、懇親会や弁当、生協での昼食の手配ができるかという事でした。北海道内の物流がほぼストップしていたので、コンビニやスーパーでも食品やペットボトル等が大幅に不足している状態でした。

8日(土)午後には大学の水道が復旧したので、大会を開催できるというご案内をMLで流しました。懇親会会場のニューオータニ札幌にはいち早く開催可能というご連絡を9日(日)に頂きました。また、大学生協でも「サーモン・いくら丼」の冷凍いくらが溶けて廃棄という事態が発生しましたが、再度発注して頂き、10日(月)には予定のメニューを提供可能と連絡を受けました。一番手間取ったのが弁当の確保でしたが、これも市内の業者に引き受けて頂きました。要旨集の印刷をお願いした株式会社アイワードでは石狩工場が被災しませんでしたので、停電復旧後予定通り納品して頂きました。また、共通

論題の情報保障としてPCでの要約筆記を担当して頂いた公益社団法人札幌市身体障害者福祉協会から10日(月)には対応可能と連絡を頂き、災害復旧のお忙しい中4名の職員を派遣してもらいました。(身体障害者福祉協会の職員の方には8月に会場の下見、使用機器の確認と打ち合わせを行って頂きました)

このような想定外のアクシデントがいくつもありましたが、学内外の協力を頂き、比較的短期間で開催のメドを立てられたと思っています。

さて、今回の震災で私自身が困った事があります。それは幹事会との連絡です。停電の間はPCとネットが使えません。その間はスマホだけがたよりです。残った電池量を気にしながら、あるいは基地局の電力も落ちて行く中で、電波が拾える場所を探しながら幹事会にスマホから被災、復旧状況を送信していました。しかし、幹事会からのレスが直ぐに来るわけでもなく…幹事会は幹事会でいろいろご検討中だったのかもしれませんが、もう少し実行委員会と幹事会の連絡体制(あるいはエマージェンシーへの対応)は考えておいてもいいかと思いません。

反対に今回ラッキーだった事は、ACプランニングに振込の管理等の準備をお願いしたことです。停電してしまえばPCは使えませんし、金融機関も休業となります。札幌では作業ができない期間、ACプランニングに京都で業務を続けてもらえて、影響は最小に抑えられたと思います。助かりました。

このような想定外のアクシデントに見舞われながらも、2日間の大会を無事終わられて今はホッとしております。

最後に大会の会計について述べます。会計報告は以下の表の通りです。今回の大会開催に当たり、北海学園大学から13万円の補助金を頂きました。くわえて本学では教室等施設使用料が無料です。そのために懇親会での料理や飲み物に十二分に予算を使う事ができました。また「教育・研究活動費」も会計報告の通りに実行委員会で受領しました。この中から、(1)実行委員会から北海学園大学生協へ災害見舞い3万円、日赤北海道胆振東部地震災害義援金へ2391円を寄付しました(当日受付で寄付して頂いた千円も一緒にこの義援金に寄付しました)。(2)実行委員会個人より以下の自治体や団体に寄付を行いました。北海道災害義援金募集委員会/北海道厚真町/北海道平取町/岡山県倉敷市真備町/反貧困ネット北海道/特定非営利活動法人 can 自立援助ホームシーズ南平岸/一般社団法人「音別ふき路団」/札幌市学童保育連絡協議会

11月5日で地震発生から2ヶ月が経ちますが、まだ道内には150人以上の方が避難所で生活されています。これから北海道は厳しい冬の時期を迎えます。これからも北海道への支援を全国の会員の皆様へお願いしたいと思います。

(第137回大会実行委員長 中園桐代)

7. 第 137 回(2018 年度秋季)大会の会計報告

収入	円	支出	円
大会開催費	1,500,000	AC プランニング(委託費, プログラム印刷発送等)	866,291
書店広告	102,000	アルバイト代	86,260
大学補助	130,000	振り込み手数料, 通信費, 文具	24,848
弁当	43,000	懇親会	580,592
懇親会事前@5000, 61 人	305,000	弁当, お茶代	56,607
懇親会当日@6000, 15 人	90,000	休憩室茶菓等	16,798
利子	1	会議費	3,400
		交通費	2,670
		教育・研究活動費	532,535
収入合計	2,170,001	支出合計	2,170,001

8. 会員のご逝去について

中西洋名誉会員が 2018 年 10 月 22 日にご逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈りします。

小林英夫名誉会員が 2018 年 11 月にご逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈りします。

小笠原浩一会員が 2018 年 12 月 12 日にご逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈りします。

代表幹事 埋橋孝文

9. 2018-2020 年期幹事会報告

【第 5 回幹事会 議事録】

日時：2019 年 2 月 9 日（土）14:00～18:00

場所：同志社大学今出川キャンパス良心館 436 室

出席：石井, 伊藤, 埋橋, 榎, 鬼丸, 垣田, 郭, 熊沢, 田中, 所, 戸室, 中尾, 上村, 吉村, 畑本, 玉井, 森, 李

欠席：阿部, 岩永, 禹, 遠藤, 大沢, 金, 首藤, 杉田, 兵頭, 朴

1. 大会開催校について

埋橋代表幹事より、2020 年度秋季大会は、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催することが報告され、了承された。2021 年度春季大会について一橋大学での開催を予定していることが報告された。①一橋大学大学院社会学研究科との共催、②学会と同研究科との共同セッションの企画、同セッションへの一橋大学院生、学生、教職員の参加が可能、とする方向で準備を進めることを確認し、了承された。具体的な企画や運営については時機を見て協議していく予定である。

2. 社会政策学会賞表彰規程の見直しについて

埋橋代表幹事より、学会賞表彰規程の第 2 条（および第 3 条）の最後に「学術賞は（奨励賞は）会員複数への授与を妨げない。」を入れること、第 4 条【審査の対象】学術賞および奨励賞の審査の対象となる業績は、表彰の前年の 1 月 1 日から 12 月末日までの間に刊行された、会員が単独で執筆した著書とする改正案の提案があり、了承された。

3. 政治経済学・経済史学会との共催について

埋橋代表幹事より、政治経済学・経済史学会からの下記「春季総合研究会」共催依頼の紹介があり、了承された。政治経済学・経済史学会「春季総合研究会」

日時：2019 年 6 月 15 日（土）13:00-17:00

場所：東京大学農学部（弥生キャンパス）農学部 1 号館 2 階第 8 番講義室

論題：「経済学部の成立と日本の学知」（仮）

4. 名誉会員の推挙について

埋橋代表幹事より、75 歳以上、30 年以上の会員歴の会員から現任幹事が推薦し、幹事会で了承を得るというプロセスを踏まえて名誉会員に推挙するという提案があった。審議の結果、推挙会員の業績と学会への貢献度などの基準と幹事の推薦に基づき、幹事会で検討することとなった。

5. 選挙管理委員会の委嘱について

埋橋代表幹事より、2019 年役員選挙のため、規定にしたがって、5 地方ブロックから 1 名以上、5～8 名、幹事会から委員を委嘱するとの提案がなされ、了承された。

6. 春季大会企画委員会

鬼丸委員長より、第 138 回大会の報告応募状況（テーマ別分科会 6 本、自由論題 9 本）、今後のスケジュール、および、2018 年春季大会開催の博士論文報告会のその後の動きをニューズレターに掲載することについて報告があった。教育セッションのテーマを「質的調査および量的調

査を進めていくために」に決定したこと、発表者は垣田裕介、水野谷志志会員とすることで、了承された。共通論題のテーマは「『一億総活躍』の現実を問う」とすること、座長兼コメンテータは仁田道夫会員とし、報告者は禹宗杭、鈴木江理子（非会員）、中村優介（非会員）、浅見和彦の各氏とすることも了承された。なお、大会1日目の開催時刻が10:30開場、11:00開始との報告があり、承認された。最後に、開催校の高知県立大学の田中きよむ会員より、大会開催の挨拶および大会開催キャンパス（永国寺キャンパス）の紹介があった。

7. 秋季大会企画委員会報告

吉村委員長より、第139回大会（於・法政大学）の準備状況及びスケジュールについて報告があった。共通論題のテーマは「社会的投資戦略と教育（仮）」とすること、報告者は森直人、荒木宏子、尾川満宏、筒井美紀、の各会員、座長居神浩会員とする。また、共通論題の時間帯は12:45-16:50とすることで、了承された。なお、大会は2019年10月19日（土）に共通論題、20日（日）にテーマ別分科会・自由論題とすることも了承された。

8. 学会誌編集委員会報告

石井委員長より、学会誌の刊行進捗状況について報告があった。1年に1回総投稿数および査読決定数をニューズレターで公表すること、第三査読にかかる論文が増えているため、チャート図の修正や「編集委員会による第三査読（査読ではなくて判断）」を原則とすること、ワーキング・ペーパー等や博士論文の取り扱いについて投稿規程に掲載すること、掲載証明の依頼が増えているため、編集委員会の印鑑を作成すること、査読専門委員には担当した査読論文の本数により表彰を行うことなどの提案があり、了承された。

9. 広報委員会報告

伊藤委員長より、業者（ビッグバンテクノロジー株式会社）からの「見積書」と「業務委託契約書（案）」について

紹介され、今後の委託先として決定したことが了承された。また、金副委員長よりの英文誌（JASPS Bulletin）No.2の予算執行報告とNo.3の韓国準備状況報告の紹介があった。

10. 国際交流委員会報告

上村委員長より、国際学会報告助成制度2019年度の国際交流事業についての報告があった。国際交流分科会のテーマ「知識経済におけるケア労働」（仮）、招聘予定者Nathalie Morel氏と森川美絵会員が務めることで、了承された。また、日本経済学会連合「国際会議派遣補助」について、委員会の審査の結果、高瀬久直会員を推薦することに同意した。日中交流事業、日韓交流事業において、韓国社会政策学会との協定に合わせて、中国にも隔年に会員を派遣することにするという方向で進めていくことになった。国際交流活動費規程案が示され、138回大会総会での改正案の審議に向け引き続き検討していくことになった。

11. 70周年重点事業について

所事務局長より、「重点事業（案）」（禹・所・垣田）（仮称「若手研究者報告論文賞」、仮称「若手研究者特別セッション」、仮称「社会政策学会若手研究者夏のキャンプ」）の3点の素案の提案があった。それぞれの具体案について引き続き検討することとなった。

12. 学会史小委員会報告

玉井幹事より記念誌の刊行時期（2020年春の大会ころを目標とする）、内容構成、見込み予算と進行状況について報告があった。

13. 事務局

所事務局長より、若手研究者のセッション準備のためへの出席について共通論題の準備に準ずるものに関して旅費を支出することが提案され、了承された。

14. 入会 9名の入会申し込みを承認した。

15. 次回幹事会

次回（第6回）の幹事会の開催については、議題の多寡に応じて検討し、後日知らせることになった。

10. 承認された新入会員

氏名	所属	専門分野
瀧澤宏直	首都大学東京人文科学研究科	社会保障・社会福祉
叶寧	日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科	社会保障・社会福祉
吉中昭夫		労使関係・労働経済
田中光	神戸大学大学院経済学研究科	労使関係・労働経済
藤田典子	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科	労使関係・労働経済、 ジェンダー・女性、生活・家族
前田佳宏	大牟田市社会福祉協議会	社会保障・社会福祉
長谷川敦也	大阪市立大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉
前田尚子	岐阜聖徳学園大学看護学部	生活・家族
楠山大暁	ノースアジア大学経済学	社会保障・社会福祉

